日本自然保護協会
The Nature Conservation Society of Japan

29日自然第46号
2017年7月21日

名護市長　稲嶺　進　様

公益財団法人 日本自然保護協会
理事長　　亀山　章

長島の洞窟の天然記念物指定を求める要望書

日本自然保護協会は辺野古・大浦湾の生物多様性豊かな自然環境の保全に18年前から取り組んでおり、その立場から意見を述べます。

2014年7月に、洞窟学、環境動態解析、およびカルスト・システム学専攻の2名の専門家により、長島の洞窟が、鍾乳洞であり、石筍にサンゴ礫が付着して成長している現象が日本での報告例が少なく、希少性が高いと判断されました。

この洞窟を調べることにより、長島や辺野古周辺の地域の数万年から十数万年にわたる海面変動に関連した自然史が判明する可能性が高く、その年代を確定するために、鍾乳洞や固着したサンゴ礫の年代測定をすべきであるという助言をいただきました（浦田健作、2014）。

また、一般にこのような洞窟には光がないことから、特殊な環境に適応した生物（例えば、真洞穴性や好洞穴性生物）が生息していることが知られています。長島の洞窟は、地理的に隔離分布しているため、ここだけに生息しており固有種化している生物の生息の可能性も高いと考えられます。

長島は米軍普天間飛行場代替施設建設事業予定地の近くに位置しているため、工事の影響を受ける可能性が高く、また気候変動による海域全体への影響も考えられるため、名護市が洞窟を調査し、それにもとづいて天然記念物に指定して、保護していくことを要望いたします。

以上

参考資料：
日本自然保護協会（2014年）記者会見資料
http://www.nacsj.or.jp/archive/files/katsudo/henoko/pdf/20140709henokokaikensiryo_0715kaitei.pdf
琉球朝日放送（QAB）2014年7月15日放送
http://www.qab.co.jp/news/2014071556056.html